

慶讃テーマ **南無阿弥陀仏** **人と生まれたことの意味をたずねていこう**



1、法事のお経(浄土三部経)

浄土真宗の根本聖典は、南無阿弥陀仏の教えを説く浄土三部経すなわち、①仏説無量寿経、②観無量寿経、③阿弥陀経。

2、阿弥陀のいのちを生き道を求め続けた苦難の長い歴史

法蔵菩薩の歩みにより到達した四十八願、絶望の淵の者(韋提希)の問いを機縁として明かされた釈尊出世本懐の法、そして、その教えに一心に手を合わせることを勧める経。これら、浄土三部経の教え(南無阿弥陀仏)は、まさに、手探りで人生を生きる私達自身、一人ひとりのための法なのである。

法語1 (南無阿弥陀仏は)無明長夜の燈炬なり 智眼くらしとかなしむな
生死大海の船筏なり 罪障おもしろとなげかざれ (正像末和讃)

趣意 罪悪深重の身であると自覚された自身が助かる唯一の教えが、この他力本願(阿弥陀仏が私達のために立てられたいのちの願)を信じて称名念仏申すことである。私の内にある阿弥陀のいのち(法蔵のいのち)は、世俗の欲を離れて輝いているのに、私といういのちの器が煩惱(我欲)に翻弄されて、いのちの輝きを閉じ込めてしまうのだ、と。

法語 1 弥陀の本願には老少善悪のひとをえらばれず。ただ信心を要とすとし
るべし。そのゆえは、罪悪深重煩惱熾盛の衆生をたすけんがための願にてましま
す。(歎異抄 第一章)

3、十悪

- ①殺生 ②偷盗(盗み) ③邪淫-----身業(身体的行為)
- ④妄語(偽り)⑤綺語(ざれごと)⑥悪口⑦両舌(二枚舌)-----口業(言語行為)
- ⑧貪欲 ⑨瞋恚 ⑩愚痴-----意業(精神的行為)

4、仏教は行為を三つの側面から押さえる

宗教は、内面の罪と外面の罪を区別しない。ここで思ったこと、実際におこなったことは同じ重さなのだ。内面で思ったことが行為に表現されるかどうかは、「宿業」が決定することだからである。それが表に現れるか現れないかの違いであって、罪の重さは変わらない。